



新里中だより

二十四節気の雨水を迎えます。季節は着実に春に向かっていきます。3年生の卒業まであとわずかとなりました。残り少ない日々を仲間と共に大切に過ごしてほしいと思います。

(文責)校長 阿久津 泰

立春式

大人への階段を一段上がった2年生 今後の更なる成長に期待します



2月3日(火)に第61回立春式と第35回立志の塔に集う会を実施しました。本校の立春式は60年以上続く伝統行事で、14歳を迎える2年生が将来の夢を短冊にしたため、立志の塔に納めるものです。また、26年後に、40歳になった卒業生が級友と再会し、短冊を受け取る立志の塔に集う会も同時に行われます。今年度は6名の卒業生代表が、式に参列してくださいました。

式典では、生徒代表の〇〇〇〇さんが謝辞を述べ、全員で「自覚・立志・健康」の三大目標を唱和しました。式典後には、社会保険労務士の大谷祐三さんによる記念講演会が行われました。「やる気の持続可能性」「人間関係論的アプローチ」など、中学生として指標となるお話をたくさん聴くことができました。

今年度は、新里中央小学校の体育館をお借りしました。関係の皆様にはご不便をおかけしましたが、2年生の立春式を滞りなくお祝いすることができました。また、立志の塔に集う会の皆様から、ステージ上の立春式看板(新しい体育館用)を寄贈していただきました。ご協力・ご支援いただいた皆様に、改めて感謝申し上げます。

新里中学校「立志の塔」のお話

「私たちの本分は勉強である。日本一の立志の塔を持つ新里中学校である。

常に高い理想に生き、限らない継続性をもって日本一を誇る中学にならなければいけない。」

上記は、1970年度の文集『桑っば』に、当時の校長の飯島保先生が綴ったメッセージです。

1960年代、全国的に立春式の行事が広まりました。地域全体で子供たちの成長を祝う文化が強かった新里村においても、地元中学校での立春式が実現しました。さらに「目に見える志の象徴」として塔を建てることとなり、1966年に「立志の塔」が誕生しました。1991年に、塔は現在の場所に移され、あわせて古い短冊も引っ越しました。

立志の塔に集う会は、「短冊を人生の節目で返そう」という構想が形になり、1992年に始まり、40歳(2度目の成人式)で集まる形が定着しました。なお、短冊の格納部屋は嚴重に施錠されており、毎年2月になると、短冊の出し入れのため扉が開かれます。



木造校舎と立志の塔

いじめ防止子ども会議

中学校6校の生徒が オンライン会議

1月27日(火)の14時より、オンラインにて「桐生市いじめ防止子ども会議」を実施しました。市内の中学校を2つのグループに分けての会議となり、本校は清流中、境野中、梅田中、相生中、桐大附中と同じグループとなりました。各校の生徒代表、保護者代表、職員、教育委員会の職員が画面上で顔を合わせ、「あなたと私が認め合ってつくる未来」をテーマに、いじめ防止に向けた取組を話し合いました。

会議では、各校で実施しているいじめ防止の取組を紹介しました。最後に今年度のテーマに沿った情報交換を行いました。参加した生徒会本部役員の生徒たちは、他校の取組を知ることで、テーマに対する考えを広げたり深めたりすることができたようです。今後は、会議の成果をそれぞれの学校や地域で広めていくことが大切になります。これを機に、生徒自身が自分たちの力で、いじめをなくす活動を積極的に推進していくことを期待しています。

入学説明会

新しい仲間を迎える準備

2月6日(金)と2月13日(金)に、新里地区3小学校の6年生を対象にした入学説明会を実施しました。視聴覚室にて2度に分けて行い、各担当より、勉強、部活動、学校生活、自転車通学、健康管理等について簡単に説明しました。なお、令和8年度の新入生は136名となる見込みです。

新里中学校の新しい仲間となる皆さんには、夢や希望を抱いて入学してくれることを期待しています。私たち職員一同は、本校への入学を選んでいただいた児童や保護者の願いをしっかりと受け止め、「新里中に入学してよかった」と思っていただけのように、全力で教育活動に取り組んでいきたいと思えます。

群馬県公立高校入学者選抜

頑張れ! 3年生

私立ならびに国立の高等学校・高等専門学校など諸学校の入学者選抜も概ね滞りなく進み、いよいよ今週の2月19日(木)、20日(金)に、群馬県公立高等学校の入学者選抜が実施されます。昨年度より出願方法がWeb方式となったため、生徒や保護者の皆様には手続き等で不慣れな点や不明な点が多々あったとは思いますが、まずは無事に出願を済ませることができました。

この2日間で、学科試験に続き面接試験も行われることとなります。試験を受ける生徒の皆さんにおかれましては、これまでの努力を信じ、万全の体調で当日を迎えてほしいと願っております。職員一同、皆さんが持てる力を最大限に発揮できるよう、一丸となって応援しております。

また、既に進路が決定した生徒もいますが、決して気を緩めることなく、卒業の日まで、学びの集大成として一日一日を大切に過ごしていくことを期待しています。